成田・羽田間のリニア新線は有意義

印西市特集　6月県議会 一般質問

県独自に中心市街地活性化を！

滝田議員　県内各都市の中心市街地が空洞化していることから、新しい中心市街地活性化法が平成十八年から施行されていますが、新法では選択と集中により、千葉市や柏市など誰もが認める中心都市しか利用できなくなっています。このため、活性化法による取り組みだけでは、県民の身近にある市街地が見捨てられ、空洞化が一層進んでしまうと、私は危惧しているところです。

今こそ、活性化法の枠を超えた取り組みが必要と考えます。県として、中心市街地の活性化に総合的に取り組むため、ビジョンを策定すべきではないか。

商工労働部長　中心市街地の活性化をはじめとする街づくりについては、主体となる市町村や地域住民、事業者など多様な主体が協働して取り組むべき課題です。

このため、県としても総合的に支援していくことが重要と考えており、今国会に上程された「地域商店街活性化法案」の動向も見ながら、基本的な考え方を研究してまいります。

要望　私は、堂本県政の時代から、この問題を何度も取り上げてきましたが、議論がまったく噛み合いませんでした。まずもって、県執行部には、中心市街地の問題に関心をもっていただきたい。現時点でも、県内二十自治体が、中心市街地活性化基本計画を策定しているのです。

この問題について、市町村と国任せではなく、県としても独自の検討をするよう、強く要望します。

新知事に就任した森田健作氏と、2月16日に北総線と成田新高速鉄道を 視察しました

両空港間のアクセス改善重要

滝田議員　森田知事はマニフェストで「成田・羽田両空港を約十分で結ぶリニアモーターカーの実現」を掲げています。

私としても、成田空港の機能強化に向け、両空港間のアクセス改善は重要と認識しています。

成田・羽田両空港の一体的活用とリニアモーターカー、成田新高速鉄道整備事業の基本的な考え方について、伺いたい。

森田知事　成田新高速鉄道は、都心から成田空港へのアクセス向上はもとより、千葉県北西部の交通利便性の向上や成田市域と千葉ニュータウン地域の連携強化を図るために必要であることから、平成二十二年度の開業に向け、県としても事業の促進に努めているところです。

また、国において検討されている短絡線の整備などによる成田・羽田のアクセス改善も、両空港の一体的活用を推進していく上で必要であると認識しています。

さらに、わが国の国際競争力の強化を図り、日本経済全体を底上げするためには、成田空港のさらなる容量拡大に向けた検討と合わせ、両空港の一体化をより強固にするため、リニア新線等の検討は大変有意義であると考えます。

北千葉道路、25年度完成予定

滝田議員　北千葉道路は、国の都市再生プロジェクトにおいて、首都圏北部と成田空港間のアクセス時間を大幅に短縮する新たなルートとして位置づけられています。北千葉道路の千葉ニュータウン区間の進捗状況はどうか。

県土整備部長　北千葉道路の千葉ニュータウン地区内約十九・七キロについては、都市再生機構の開発事業によって整備され、現在、四車線で供用されているところです。

このうち、交通渋滞が多発している白井市谷田から印旛村鎌苅までの約十キロについては、平成十九年度から北総鉄道沿いの掘割部を利用して都市再生機構により、六車線化の事業が進められております。これまで、調査設計や関係機関協議などが行われてきたところですが、平成二十五年度の完成に向け、今年度から千葉ニュータウン中央駅から印西牧の原駅間の約四・三キロについて、工事に着手する予定となっています。

概略設計へ向け検討

千葉・柏道路計画

滝田議員　千葉ニュータウンから西側地域の幹線道路は、慢性的な交通渋滞に悩む国道16号だけで、この状況を解決するには、国道16号千葉・柏道路計画を進めていくことが重要ですが、千葉・柏道路計画の取り組み状況はどうか。

県土整備部長　国道16号千葉・柏道路については、住民の意見を計画づくりに反映させるパブリック・インボルメント、つまりPI方式により、検討が進められ、昨年七月に利根川沿いのルートが有効との方針が示されたところです。

国では今年度、このバイパス計画の構想ルートを約一キロの幅で示し、地域の方々の意見を聞きながら、概略設計策定のための検討を進めると聞いています。県としては、これらの成果を踏まえた都市計画決定などの手続きに向けて、引き続き関係部局と調整を図りながら、国へ積極的に協力してまいります。

自民党畜産議連の一員として東総地区を視察する滝田県議

地元のため　地域のため　信念を持って

たきた（滝田）　とし（敏）　ゆき（幸）　県議